

## 転生する宿場のおもかげ

外国人の手によって別荘地として開発された100年以上前、江戸時代から中山道の宿場町として栄えていた軽井沢町、その中心になっていたのが追分宿です。中山道と北国街道が分岐する交通の要衝として、旅籠や茶屋などが百軒近くも軒を連ねていたということで、追分こそが軽井沢の賑わいの原点だったともいえます。追分宿郷土館が整備され、近年は街路整備や駐車場、休憩所が整い、街道筋の面影が戻りつつありますが、休業や閉店を余儀なくされる商店、空き家化する住宅もあり全体のまち並み整備は終わっていません。

商店の誘致を含めた建造物対策、生垣や板壁などによるまち並み修景に加えて、歴史街道に相応しい、歩いて楽しむ追分宿のルネッサンス事業に向けて、民間資本の導入と行政からの支援が合体したまちづくり会社の設立が期待されます。

美しく年を重ねるこの場所は、芸術・文学に心惹かれる人々を引きつける磁場でもあり、宿場通りと<sup>わかさ</sup>分去れを歩道でつないで一体化することも街道復活の方策の一つです。



### わかさ 分去れと街道の接続 ①

中山道と北国街道の分岐点、分去れまで、歩行者空間を引き伸ばします。歴史的な遺構を、観光名所、散歩の目的地に位置づけなおすことで、追分の賑わいの拠点をつなぎ、地区の空間的な厚みを増します。



### 「軽井沢モダン」の発展 ②

街道沿いには、既に追分の「軽井沢モダン」を牽引する品の良い建物、魅力的な飲食店が点在しています。この流れを継承し、街道全体の質を引き上げ、「軽井沢モダン」の更なる発展を目指します。



### 国道から追分地区への玄関口の設置 ③

国道沿いに車をとめ、木立を抜けると追分のまち並みが広がります。国道からその存在に気づきづらかった、追分地区に新たな玄関口を設けることで、アクセシビリティの向上を図ります。

